

第二章

京都府の国際化の目標と活動主体の役割

日本の国際化は、石油ショックによるエネルギー危機、欧米諸国との貿易摩擦、円高やアジア地域を中心とする新興工業国・地域の経済成長など、日本の経済的な発展とそれに伴う国際関係の変化に対応して、国内の産業構造をどう調整していくかという、いわば「経済の国際化」を軸として進められてきました。

その後、日本経済が世界の総生産の8分の1という大きなウエイトを持つようになると、経済的開放や国際的貢献が世界から求められ、地方自治体も住民の国際理解の促進、留学生の支援、文化交流、研修生の受入れ、開発途上国への協力など、国際活動において重要な役割が期待されるようになってきました。

また、海外に旅行し、あるいは海外で生活する日本人が増える一方、留学や就労などの目的で日本に暮らす外国人が増加し、従来から日本に生活の本拠を持つ韓国・朝鮮の人々を含めて、地域社会で異なる国籍や文化を持つ人々とどう共生していくかという「内なる国際化」の重要性についても強く認識されるようになっていきます。

今後21世紀に向かって、東西冷戦終結後の新しい世界秩序の形成に向けた模索が続き、様々な技術革新や情報通信の発達によって世界の相互依存関係が更に深まるとともに、それぞれの地域や一人ひとりが人類全体の平和と豊かさの実現に努力し、お互いの人権が尊重され多様な文化が共生する地球社会を築いていくことが大きな課題となっていきます。

こうしたグローバリゼーションの進展は、地域社会や個人のあり方をも問い直しており、政治や経済だけでなく、教育、文化、労働、福祉、医療、都市計画、環境保全、地域の活性化といった地方行政全般にわたる分野において、国際化という視点を持った施策を推進していくが必要になっています。更に、企業や大学、教育機関、団体・グループ、個人といった様々な地域社会の担い手にも、同様に国際化を視野に入れた活動が求められます。

本章では、京都府が国際化を進める目標と基本方向、それを実現するための各活動主体の役割について記述しています。

第1節 京都府の国際化の目標と基本方向

京都府は日本列島・本州のほぼ中央に位置し、人口260万7,482人（1993年10月1日推計）で、44の市町村から構成され、南北に細長く伸びた地形から、北部・中部・南部の各地域で異なった気候、風土等を持っています。

北部地域は日本海に面し、近年ではリゾート地域や環日本海交流の拠点としての整備が進んでいます。中部地域は、丹波高原を中心に豊かな森林が広がる一方、交通網の整備に伴って都市化が進んできています。また、南部地域には、人口約145万人の大都市・京都市を擁する京都・乙訓地区と、歴史的・自然的環境に恵まれ関西文化学術研究都市の建設が進む南山城地区があります。

この京都府を世界の国や地域と比較すると、人口はシンガポールとほぼ同じで、府内総生産はポルトガル一国に相当する規模に、府民一人当たりの所得はスウェーデンと同じ水準となっており、世界文化遺産にも登録された文化財をはじめ、歴史・文化、美しい自然・風土、世界的水準の学術、芸術、伝統産業や先端産業といった資源を持ち、毎年世界の各地から多くの人々が訪れ、また生活する地域となっています。

こうした京都府の持つ特色は、そのまま日本を代表するものとして海外から交流を望まれることも多く、国際交流を進めるに当たって有利な条件となってきました。同時にこのことは、受け身型の交流になりやすいという側面も持っており、現在多くの地方自治体において国際化の取組みが活発に行われている中で、今後も引き続いて国際的に魅力ある地域であり続けるためには、京都府全体としてより積極的に国際化への取組みを進めていくことが必要となっています。

ここでは、京都府の国際化の現状と課題を踏まえながら、京都府が今後、国際化を推進していくに当たっての目標と基本方向を明らかにしています。

1 府民の 国際理解と 民間国際活動の 促進

世界に暮らす様々な立場の人々の存在を知り、遠くに住んでいる人をもっとよく理解したいということから始まり、相手を知ることによって自分も成長していけるような努力、営みこそが国際活動の本質であるといえます。

したがって、より多くの府民が地域社会の生活者としての経験と知識を活かして、様々な国際活動に参加し、異なる文化や考え方を持つ人々とのつながりを広げ、相互の理解を深めていくことが望まれ、このことが同じ人間として平等に生きていく地球社会の実現に大きな役割を果たします。

この意味から、より多くの府民が様々な国際活動に主体的に参加し、異なる文化や価値観に触れ、自らの個性を伸ばしていくとともに、異なった考え方を相互に尊重する地球市民としての意識を育てていけるよう、府民と行政が協働できるシステムをつくり、情報や人材、活動場所等の支援や、各種の国際理解事業、海外との交流事業等を実施することによって、府民の国際理解と民間の国際活動を促進していきます。

2 世界に開かれた 地域社会づくり

京都の文化や日本の文化は、これまでから海外との交流によって大きな発展をとげてきました。京都府を訪れ、あるいは京都府に暮らす外国人は、新しい文化や様々な考え方をもたらし、明日の京都府に活力を与えてくれるとともに、京都や日本のよき理解者として京都府と海外との交流のかけ橋となってくれています。

現在、京都府には人口の2%を超える外国籍の住民が暮らし、毎年海外から50万人を超える人々が訪れており、在留資格によりその立場や状況は異なりますが、言葉や生活習慣、社会制度の違いなどから、日常生活をおくる上で様々な不便や不自由さを感じることも多いことが指摘されています。したがって、こうした異なる国籍、文化、価値観を持つ人々の人権が尊重され、京都府に共に暮らす府民（＝外国籍府民）として、安心して、生き生きとした生活がおくれるよう、「世界に開かれた地域社会」づくりをめざしていきます。

3 国際活動の 基盤づくりと 地域の活性化

府民、民間国際活動団体、教育機関、大学・研究機関、企業、市町村などが、それぞれの分野で活発な国際活動を展開していくことができるようにするためには、その基盤となる施設や条件を整備していくことが必要になります。このため高速交通や情報通信のネットワーク、国際交流施設といった国際活動の基盤づくりを促進するとともに、快適で文化や自然に親しめるまちづくりを進めていきます。

また、京都企業の国際的な経済活動への支援や、国際観光・コンベンションの振興にも積極的に取り組み、こうした舞台づくりとそれを活かした活発な国際活動の展開を通じて、地域の活性化を図っていきます。